

第1回 教育懇話会 委員意見要旨

(平成26年度教育委員会活動の自己点検・評価について)

平成27年 9月1日

意見者	意見概要 (回答または対応を含む)
阿部委員	P. 6【読育の充実】関係 読育については、市町村毎に特色ある取組みがなされている。金山町では0歳児健診時に絵本を贈呈するブックスタート事業を行っており大変良い取組みである。
阿部委員	P. 6【生徒指導・相談体制の充実】関係 相談体制についてはとても充実していて助かっている。相談内容によっては、遠くの相談員に相談したい場合もあるので臨機応変に対応してほしい。
阿部委員	P. 6【次代を担う子どもの元気アップ推進事業】関係 体力づくりは、昔はまりつきやゴム跳びといった遊びの中に基礎があった。元気アップ推進事業も学校という範囲で考えているが、家庭や日常生活の中で親や兄弟が教えられることもあるのではないかな。
阿部委員	P. 7【いのち輝く食育推進事業】関係 ある幼稚園では、発酵食品が良いということで給食に納豆等を取り入れたと聞いたが、家庭でも持続的に食べられるよう、栄養面だけでなく、作っている人とのつながりも含めた食品の大切さについて、子どもと親の両方に伝えるような方法を考えてほしい。
阿部委員	P. 8【確かな学力の育成推進】関係 将来の夢や目標を持っている児童生徒を増やすことが目標の一つとなっているが、まずは子どもがそれぞれの学年の勉強がわかるという喜びを感じる必要がある。勉強がわかるということが自信につながり夢や目標を持てるようになると思う。
阿部委員	P. 15【広い「かかわり」の中で、社会をつくる】関係 広いかかわりは確かに必要なのだが、それでもやはり家族が基本になる。放課後子ども教室や学童保育などで過ごす時間が長く、家族と過ごす時間がますます短くなっている。週末くらいは家族と過ごした方が良いのではないかな。
池田委員	P. 6【次代を担う子どもの元気アップ推進事業】関係 調査の結果によれば、山形県の子どもは、50m走が遅く、ボール投げの数値が低い。背景にどういった原因があるのかが分からないと、課題解決の糸口が見えてこないのではないかな。生活様式の変化や、災害がありグラウンドが使うことができなくなったというような環境面での変化も考慮したクロスした視点で、子どもの体力を分析していく必要がある。体育の時間が確保されれば体力が向上するという切り口だけではいけない。 【回答】 齋藤スポーツ保健課長 本県の児童生徒の特徴として「走る」「投げる」が全国に比べて低いという状況が続いている。特に「走る」の短距離50メートル走の結果がよくない。「投げる」に関してはやや改善の傾向があるが、全国に比べると低い。原因の一つとして考えられるのが、雪国であるため、冬場の運動が中での活動になってしまうことである。昔のように雪の中、外で遊ぶことも少なくなっていて、冬場が運動不足になっている。
池田委員	平成11年から新しい体力測定になり測定の方法が変わった。足を垂直にするといった体力測定のルールは丁寧に示されているが、測定の際についても、ウォーミングアップの有無も含め、一定を担保していく必要がある。そうすることで、正確な値が出るようになり、評価しやすくなると思う。

<p>【回答】 齋藤スポーツ保健課長</p>	<p>体力測定については、4月から7月に行うこととなっている。学校が4月に測定すると、冬場の運動不足が影響することもあるものと考えている。</p>
<p>池田委員</p> <p>【回答】 齋藤スポーツ保健課長</p>	<p>P. 6【スポーツ競技力向上事業】関係</p> <p>昔に比べて外で遊ぶ機会が少なくなったり、目に見えて体を動かす機会が減ってきているが、たくさんスポーツをする子と全くしない子の二極化が非常に進んでいる。運動しない子が運動をしよう、能動的に動こうという時にどういう用意をしておくか。また、運動しない子をどうやって運動するように仕向けていくかということをしっかり考えなければならない。</p> <p>二極化は、例えばサッカーや野球しかしないといった自分が好きなものしかしないという二極化にもなっている。特に小学校の低学年や幼稚園の年中の頃から多様な運動機会を確保するというアプローチがとても大事である。</p> <p>体力の低下により、最も深刻な状況に陥るのが育児である。育児は大変な体力を必要とするので、体力が低下している今の小中学生が、将来子どもを抱けるのか、育児に向き合えるのかということが問題になってくる。そのためにも、スポーツを行う機会の拡大を色んな観点から進めてほしい。</p> <p>二極化による全く運動しない子への対処は学校だけでは対応できないので、家庭や地域と一緒に解決していくことが必要である。</p>
<p>池田委員</p> <p>【回答】 柏倉保健・食育主幹</p>	<p>P. 7【いのち輝く食育推進事業】関係</p> <p>朝食を食べない原因が親にあるのか、子どもにあるのかで、アプローチの仕方や事業を展開させる方法が変わってくると思う。そもそもの欠食の原因が片親だからか、両親が早く出かけてしまうからなのかといったことが分かれば、今後の対応や評価の観点も違ってくるのではないかな。</p> <p>朝食欠食率については、全国学力・学習状況調査で調べたものであるが、質問事項が選択式で、食べない時の理由を書く項目がないため、原因に関する資料はない。しかし、学校から聞いた話では、体型を気にするといった色々な個人的な問題があると聞く。また、全く食べていないという子どもに関しては、個人よりも家庭の問題が大きい。そういった場合は、担任の先生が面談を通して相談にのり、解決していくという形になっている。現在は、保護者の意識を変えるために、保護者と子どもと一緒に食育の体験を受けたり、地域で食育に関する懇談会を開いたりしている。また、食育推進会議、フォーラムを開催し、保護者や子どもの意識を変え、朝食をしっかりとるようにしていきたい。</p>
<p>出口委員長</p> <p>【回答】 軽部義務教育課長</p>	<p>P. 8【少人数学級編成等の推進】関係</p> <p>学力の目標に未達成の項目があったが、その原因・背景は何か。</p> <p>学力に関しては中下位層が多く、上位層を伸ばしきれていないところが課題である。全国学力・学習状況調査を見ると、基礎問題の知識の習得については良好だが、その活用の部分が課題になっている。これまで、全体として様々な取り組みを行ってきたが改善することができていない。これからは、子どもたちの個々の状況についてきちんと分析していくよう、学校や市町村に依頼していく。</p>
<p>池田委員</p>	<p>P. 18【スポーツ競技力向上対策事業】関係</p> <p>国体を軸にして県内の競技力向上を考えることは大切だが、加えて、小学生から高校生、そして社会人に至るまでつながる長期的な視点での評価が大切なのではないか。長期的な視点の目標指標があると、小中学校でより具体的な目標をたてることができ、競技力向上を目指しやすくなると思う。</p>

<p>上野委員</p> <p>【回答】 軽部義務教育課長</p>	<p>P. 4【「いのちの教育」総合推進事業】関係</p> <p>道徳教育及び人権教育のモデル校の実践をどのように普及しているのか。また、自尊感情については非常によく育まれているが、他のいのちを尊ぶことについてもデータとして把握する必要があるのではないか。</p> <p>モデル校を中心とした先進的な取組みの普及啓発については、地区を変えながら県全体に波及するよう取り組んでいる。自尊感情は学力テストに項目があるが、他尊感情の育成に係る、いのちの教育・道徳教育・人権教育の取組みについても県独自調査で補っている。</p>
<p>上野委員</p>	<p>P. 5【幼保小連携推進事業】関係</p> <p>幼保小連絡協議会に、学校だけでなく福祉行政の参加があると良いのではないかと。</p>
<p>上野委員</p>	<p>P. 7【いのち輝く食育推進事業】関係</p> <p>食育について、家庭への指導を行っていくための手立てを考えていく必要がある。給食について、カロリー計算も重要であるが食の美味しさの追求も併せて行ってほしい。</p>
<p>上野委員</p>	<p>P. 8【少人数学級編成等の推進】関係</p> <p>小学校低学年に副担任制を導入しているところがあるが、中学生も発達段階からすると非常に手がかかるので、中学校でも同様にしてはどうか。</p>
<p>上野委員</p> <p>【回答】 山川文化財・生涯学習課長</p>	<p>P. 17【「未来に伝える山形の宝」登録制度推進事業】関係</p> <p>「未来に伝える山形の宝」登録制度は様々な団体に活用されているようだが、登録制度と無形文化財指定制度の違いは何か。</p> <p>指定制度は一つ一つのものを点として指定して守るものであり、登録制度は指定されていない文化財も含め、テーマ性のある文化財を一つのまとまりとして登録・支援し、活用することで地域活性化や交流の拡大につなげていくものである。</p>
<p>上野委員</p> <p>【回答】 山川文化財・生涯学習課長</p>	<p>P. 17【伝統芸能育成事業】関係</p> <p>ブロック毎の民俗芸能団体の集まりである地域懇話会について、置賜は平成25年度に、最上は26年度に設置された。村山と庄内地域では、民俗芸能の種類が多岐に渡っていることや、庄内では、酒田市、遊佐町、庄内町の教育委員会に民俗芸能協議会が設置されていることもありまだ設置されていない。鶴岡市にも協議会を作り、各市町と横でつないで庄内懇話会にしたいと考えている。各地区に地域懇話会が出来るまで、県の民俗芸能懇話会の継続をお願いしたい。</p> <p>山形県の国指定無形民俗文化財の件数は6件と東北地域の中では少ない方である。指定を受けることができると、その地域で文化財を守る意識が醸成され、地域活性化につながっている。山形県の中には国指定に値する民俗芸能がまだまだあるので、指定について積極的に働きかけてほしい。</p> <p>地域の民俗芸能で小学校の課外活動と結びついて行われ、地域活性化に寄与している事例がある。こうした活動が学校の統廃合により地域が拡大されても継続されるよう支援してほしい。</p> <p>これまで4地域で行っていた民俗芸能のフェスティバルを、26年度からさくらんぼ祭りの中で一本化して行っているが、参加団体数が以前より減少しているのではないかと。地域毎に行うことによる地域活性化の効果は非常に大きいので、再検討してほしい。</p> <p>県の民俗芸能懇話会は4地域の代表者の意見交換の場であると同時に、県の施策を伝える貴重な機会であるので年2回程度開催していきたい。地域懇話会については、まずは緩やかな集まりからということで働きかけを続けている。</p>

	<p>民俗芸能の国指定を増やすことについては、他県の事例等について情報収集を図るとともに、国の担当者に見ていただくことも考えていきたい。</p> <p>また、学校の統廃合により地域の民俗芸能が失われることのないよう、公民館等地域での対応について検討してもらっているほか、指導者に対する研修や出前講座を行っている。</p> <p>民俗芸能のフェスティバルについては、人の多く集まるさくらんぼ祭りで行っているが、地域単位で社会貢献基金等を活用してできないか検討しており、今年度最上と村山で開催を予定している。</p>
栗田委員	<p>P. 4【家庭教育推進事業】関係</p> <p>生活保護ではない普通の生活をしている人の未納が全国的には多くなっている。学校給食費の未納の問題についてはしっかりと公開していくことが必要である。</p>
栗田委員 【回答】 軽部義務 教育課長	<p>P. 8【少人数学級編制等の推進】関係</p> <p>教育に携わっていない人には、山形県の学力が全国に比べて実際どのくらい劣っているのか分かりづらいので、県民にも分かりやすくなるような工夫が必要ではないか。</p> <p>学力テストについて、全国トップの1人を育成するのではなく、全国で100番に入ることのできる層を3年、5年計画で育てていく姿勢が必要不可欠だと思う。</p> <p>成績評価の基準については、市町村で行っているNRTや全国学力・学習状況調査では、全国の正答率を一つの基準にしている。</p> <p>全国学力・学習状況調査については、個人の順位は本人も分からないという状況である。そのため、一人ひとりの現在の力をきちんと把握し、それぞれにあった指導で伸ばしていきたいと思っている。</p>
栗田委員 【回答】 大沼高校改 革推進室長	<p>P. 13【県立高等学校将来構想推進事業】関係</p> <p>キャンパス制の導入状況について伺いたい。</p> <p>キャンパス制は、平成22年に本県独自の制度として導入したものである。1学年3学級以下の小規模高校が、近隣の高校と連携交流して教育環境を確保する制度である。キャンパス制には、2つのタイプがあり、1学年2～3学級の高校については、地区ごとの検討委員会で導入するかを決めている。1学年1学級の高校は、原則対象としている。すでに26年度から新庄北高校と最上校、新庄南高校と金山校でキャンパス制が始まっており、連携交流が上手くいっていると評価を受けている。今年度は、新庄神室産業高校と真室川校にキャンパス制を導入した。今後も連携交流を進め、教育環境を補っていく。</p>
酒井委員	<p>P. 6【次代を担う子どもの元気アップ推進事業】関係</p> <p>6歳児の体力が落ちてきており、幼児教育の間に色々な運動に触れさせることが大事である。1つの運動だけでなく、様々な遊びや運動に触れさせることで、小学校での体育が好きになる素地が養われる。今年度から幼稚園に勤務しているが、年長のサッカーが得意な少年をブランコに乗せてみたら、ブランコを自分でこげないという例も実際にあった。幼児教育では好きな遊びに没頭することが大事とされているが、本園ではこうした現状を先生方が認識し、日常の遊びの中で声かけして試してみたりすることで、子どもたちの遊びに向かう意識も少しずつ変化している。</p> <p>今年度の体育の全国研修大会の中で、今の5歳児の体力は昔の3歳児並みとなっており、もう一度学力と合わせてしっかりと体力や運動能力を考えていかないと、長い人生を元気で健康に生きていくのが難しくなるだろうと感じている。</p>

酒井委員	<p>P. 8【少人数学級編制等の推進】関係</p> <p>昨年度まで校長をしていた小学校で、少人数学級編制により学級数や先生が増え、学校の力が強くなったと感じた。今では、少人数学級が当たり前のようにになっているが、原点に立ち返り感謝して進めていく必要がある。また、特別支援学級にも少人数学級編制基準が導入されたことで、学年や障がいの違いなど一人ひとりの子どもの状況に応じたきめ細かな教育を進めていくことが可能となり、大変有難かった。</p>
酒井委員	<p>P. 8【確かな学力の育成推進】関係</p> <p>全国学力調査の正答分布を見ると、算数Bでは6、7問目で回答が止まっている。山形県の子どもたちも問題を解き慣れると本来持っている実力をもっと出せるのではないだろうか。先生方の授業の指導方法も変えていかねばならないだろう。じっくり考えると楽しく解けるという経験を、意欲につなげることが大切である。宿題等の工夫も必要になってくる。昨年度勤務校の6年生は、体力や学習意欲が高く、探究力も高かった。給食も完食し、体力があって生き活きとくらす中で、学力も向上していくという好循環を経験したことで、保護者と教職員が一緒になって子どもを伸ばしていくことが肝要だと感じている。</p>
渋谷委員	<p>P. 17【「未来に伝える山形の宝」登録制度推進事業】関係</p> <p>従来は文化財の指定がないと支援できないという制度上の問題があったが、「未来に伝える山形の宝」登録制度は、指定がなくても県が支援できる非常に良い試みである。</p> <p>文化財の保護は、地域住民の熱意がないとどうしても進まない。被災3県では、高台移転をする前に発掘調査を行っている。被災地で発掘調査をして説明会を行うと、地域住民の方が多く来て下さる。被災前だと10～20名だったのが、今は100名ほどが集まる。その地域の文化遺産というものに対して、心の拠り所という認識が高くなっていると感じる。阪神淡路大震災では、復興を急ぐあまり、発掘調査はしたが説明会をせず家を建ててしまった。そのため、住民が、地域にある文化財に対して認識がないままになってしまい、地域に対する愛着がなくなり、その土地の人口も減ってきているという話を聞いた。「未来に伝える山形の宝」登録制度を今後も促進してほしい。</p>
武田委員	<p>P. 8【確かな学力の育成推進】関係</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果について、一喜一憂する必要はないが、過去の調査結果と比較すると右肩下がり傾向にあり、非常に危惧すべき状況にある。結果を客観的に分析した上、教室での授業改善を徹底していくことが大切である。</p> <p>成績公表の必要性は感じないが、点数取りの技術ではなく、社会を生き抜くために本質的に必要な学力を教えてほしい。教育に競争原理を持ち込むことは、結果だけを求めることにつながりかねない危険なことでもある。</p>
<p>武田委員</p> <p>【回答】 渋江 特別支援 教育室長</p>	<p>P. 9【キャリア教育推進事業】関係</p> <p>特別支援学校に通う子どもたちは、卒業してからの生活に大きな不安を抱えている。こうした子どもたちへのキャリア教育は、自立性を養うだけでなく、民間事業所の理解や協力を得やすくなる効果も期待できるので、普通校と同様に充実させてほしい。特別支援学校におけるキャリア教育の現状について伺いたい。</p> <p>高等部を卒業するまでに、働くことについてしっかりと身につくよう指導している。中・高等部では、作業学習等の実体験を通じて、人の役に立つことや自分で稼ぐこと等について具体的に教えている。小学部では、人と関わりを持つこと、人のために何かすることについて教えるため、良い段取り、きちんとしたあいさつや返事、役割を持つこと等について段階的に教えている。就労については、一昨年、昨年とも就職率100%を達成した。1,000社にお願いして就職先が見つかったケースもあった。親御さんからも</p>

	<p>一緒に見てもらうなどの協力をいただきながらマッチングに努めている。様々な機関や事業所等の御協力をいただきながら、一人ひとりの自己実現が図られるよう取り組んでいきたい。</p>
武田委員	<p>P. 21【いじめのない学校づくり支援事業】関係</p> <p>いじめ対策と同様、非行をなくすための取組みについても力をいれて進めてほしい。深夜徘徊をして犯罪に巻き込まれた痛ましい事件が起こった。子どもたちの非行の芽を摘むことは非常に大切である。警察等の関係機関と連携し、目標数値を掲げて重点的に取り組んでいく必要がある。</p>
本間委員	<p>P. 4【「いのちの教育」総合推進事業】関係</p> <p>さんさん「いのち」の絵本及び「生き方」につなぐ推薦図書について、現場ではどのように活用されているのか。</p> <p>【回答】 軽部義務教育課長</p> <p>学校を巡回する形で実施しており、年度末に子どもたちが絵本を読んで持った感想などを提出してもらっている。実施状況については、年1回だけではなく、段階、段階で把握できるよう努めていきたい。</p>
本間委員	<p>P. 6【読育の充実】関係</p> <p>子ども読書活動推進計画を策定している市町村数が20市町村となっているが、この計画は35全ての市町村で作っておかなければならないものである。目標設定の考え方について伺いたい。</p> <p>【回答】 軽部義務教育課長</p> <p>計画を策定している市町村数は、数年前までは10に満たない状況にあったため、まずは20市町村を目標として取り組んだが、市町村教育委員会の努力により目標を超える23市町村で計画が策定された。この計画は読書活動の推進にとって重要な計画であり、全ての市町村で策定が必要なものであるので、引き続き先進事例等の情報提供を行うなど策定を支援していく。</p>
本間委員	<p>P. 9【キャリア教育推進事業】関係</p> <p>キャリア教育について、中学校・高等学校の職業教育に重点が置かれているように見受けられる。文部科学省国立政策研究所が行ったキャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査のデータ分析結果によれば、キャリア教育が児童生徒の学習意欲の向上を促すことをデータや事例を用いてわかりやすく示している。キャリア教育は、幼稚園の段階からきちんとなされていかなければならないものであり、小学校、中学校、高等学校まで一貫して行うものである。県における小学校からのキャリア教育の考え方について伺いたい。</p> <p>【回答】 軽部義務教育課長</p> <p>キャリア教育は、中学校・高等学校の進路指導という考え方だけではない。子どもたちが社会に出ていった時にどのように生きていくかというコミュニケーション能力などの資質面も含めてキャリア教育と考えている。小さい頃から社会に出ていく資質能力のあり方についても、意図的に教育してもらえよう指導していく必要があると考えている。</p>
本間委員	<p>P. 8【少人数学級編成等の推進、確かな学力の育成推進】関係</p> <p>昨日の新聞報道によると、県では全国学力テストの結果の活用を推進するということであり、その中に「学力と子どもたちの生活習慣の結果をセットにして検証していく」との記載があった。これはとても大事なことであり、是非、学力と子どもたちの生活習慣を併せて分析してほしい。</p> <p>学力向上というと、世間一般が納得するのは数値ということもあり、どうやると授業改善ができ、ポイントを前のテストより上げられるかということに目がいってしまうが、本当の学力向上は何かということを考える必要がある。一昨年、お茶の水女子大学の研</p>

	<p>究班が行った全国学力・学習状況の分析結果によれば、多岐にわたる分野を総合的に学習しないと学力は上がらないとしており、読書や朝食習慣等が大切とのことである。</p> <p>本県の少人数学級編制は素晴らしいものであるが、成果の欄をみると、不登校が減少したことが挙げられているものの、学力向上につながったという評価がなかったことは、県全体としての危機感の現れであると解釈した。</p> <p>小中連携、生活習慣、読育における図書館活用、キャリア教育、家庭教育といった一つ一つの事業ではそれぞれの目標を達成しているようだが、事業同士の学力向上という視点でのつながりが希薄であるので、その点について危機感を持って取り組んでほしい。</p>
本間委員	<p>P. 5.【幼保小連携推進事業】関係</p> <p>幼保小連携スタートプログラムを作ることが大きな壁になっている。小学校では、4月に各学校でどう工夫していくか、幼稚園や保育園では3学期の段階でどういうアプローチをしていくかそれぞれ考えているものの、一緒に計画を策定するのは時間的に厳しい状況にある。県ではプログラムの作成を推進しているが現実的に難しいのではないかと。</p>
【欠席者】 黒田委員	<p>P. 15【地域青少年ボランティア活動推進事業】関係</p> <p>教科と同じように、ボランティア活動についても何らかの形での評価項目を作成し、高校生の自主性をさらに育むことが必要である。今後の大学入試も大きく変わり、県の評価項目も、大学が求める人物をきちんと評価できることが大切になってくる。</p>
【欠席者】 黒田委員	<p>P. 21【いじめのない学校づくり支援事業】関係</p> <p>いじめ問題の解決は、未然におこらないよう、いかに子どもたちの友達関係を構築するかが大切である。また、「美しいことば」の教育、何がいけないことかをきちんと教育することも大切である。</p>
出口座長	<p>【まとめ】</p> <p>42項目のうち、未達成は学力、体力、朝食習慣の3項目だけであったが、教育の問題がこの3点に集約されてきているとも考えられることから、他の項目についても危機感を持っていかなければならない。また、危機感が現場まで共有されているのかということ一度考えてみる必要がある。</p> <p>教育県山形の誇りと自信を持ち続けるために、皆さんから意見等をいただいたところであるが、4つに整理させていただく。</p> <p>一点目は、学力、体力の調査結果について結果だけに目がいってしまっているが、すぐに改善に取り組まないと、来年も同じような結果になってしまう。評価・検証結果を踏まえ、一つ一つの教室で改善に取り組んでいく必要がある。改善の仕方であるが、A問題が解けた上でB問題の経験もさせる必要がある。また、何故B問題が解ける必要があるのかが浸透していないので、これからの人材育成に必要な力というところを強調していかないといけない。体力も同様である。</p> <p>二点目は、生活・生徒指導の面で生活習慣も含めて多くの意見が出されたということであり、学力だけでない総合的な視点からの意見である。</p> <p>三点目は、家庭・地域に関する意見であり、問題の本質が潜んでいる可能性がある。アプローチは難しいが、アイデアを持って違う視点で関わっていく必要がある。</p> <p>四点目は、少人数学級編制に関する意見である。教育環境として山形の非常に大きな強みであるので、後退しないよう、目標に到達させながら更にすすめていくという視点が必要である。教育をとりまく環境は大きく変化すると思われるが、教育県山形と言いつづけられるような教育を実現していければと考えている。いただいた御意見、御要望については、今後の施策等に反映いただきたい。</p>